

ダ4 ▶ 屈足ダム (電源開発株式会社 / 北海道開発局)

型式：ロックフィルダム
 堤高：27.5m 堤頂長：220.1m
総貯水量：313万^m



かんがいと発電目的で作られた多目的ダムです。平成6年の建築・環境デザイン部門のグッドデザイン賞を受賞しています。



発4 ▶ くったり発電所 (電源開発株式会社)

運転開始：平成27年
 形式：ダム式 **出力：470kW**
 使用水量：4.40^m/s 有効落差：13.40m
 河川維持のために屈足ダムから放流している未利用水を活用して建設された小水力発電所です。

ダ5 ▶ 上岩松ダム (取水堰) (北海道電力株式会社)

堤高：14.3m **総貯水量：72万^m**
 ここで貯められた水は導水路を通じて上岩松発電所に送られます。



発5・6 ▶ 上岩松発電所 (北海道電力株式会社)

(1号) 運転開始：昭和31年 形式：水路式 **出力：20,000kW**
 使用水量：28.60^m/s 有効落差：83.30m
 (2号) 運転開始：昭和28年 形式：水路式 **出力：10,400kW**
 使用水量：9.20^m/s 有効落差：131.90m



1号は十勝川水系の水を、2号は然別湖などからの水を利用して発電しています。1つの発電所で水系で異なる2台の発電機を運転しているめずらしい発電所です。1号の老朽化に伴い、新得発電所が建設されます。

ダ6 ▶ 佐幌ダム (北海道開発局)

型式：重力式コンクリートダム
 堤高：46.6m 堤頂長：255m
総貯水量：1,040万^m



管理用小水力発電機 (320kW) を備えた治水専用のダムです。サホロリゾートの開発に合わせ、ダム湖の名称はサホロ湖としました。

発7 ▶ 然別第二発電所 (北海道電力株式会社)

運転開始：昭和28年
 形式：水路式 **出力：7,100kW**
 使用水量：8.50^m/s 有効落差：102.61m
 無人発電所という完成当時は珍しい形式でした。戦後の電力不足の解消に大きな役割を果たしました。



1万^mってどのくらい? (1^m=1トン、1万^m=1万トン)
 町営温水プール「ビーバー」25mプール=約500^m (0.05万^m)
 東京ドームを水で満たしたら=124万^m
 ⇒町内で一番大きい十勝ダムの総貯水量11,200万^mは東京ドーム90杯分!

ダ1 ▶ 富村ダム (北海道電力株式会社)

型式：重力式コンクリートダム
 堤高：37m 堤頂長：106m
総貯水量：290万^m



発1 ▶ 富村発電所 (北海道電力株式会社)

運転開始：昭和53年
 形式：ダム水路式 **出力：41,300kW**
 使用水量：33.50^m/s 有効落差：140.50m
 十勝川水系で最上流の発電所です。大雪山国立公園内にあるため、発電所を地下式にするなど、自然環境保全には特に注意が払われています。

ダ2 ▶ 十勝ダム (北海道開発局)

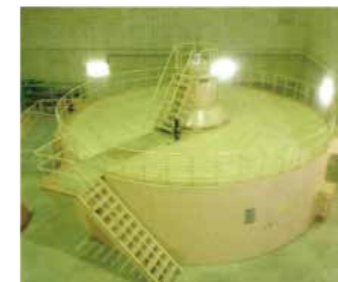
型式：ロックフィルダム
 堤高：84.3m 堤頂長：443m
総貯水量：11,200万^m



過去に何度も洪水を繰り返していた十勝川の洪水調節と発電を目的に12年の歳月をかけて建設された多目的ダムです。ダムによって形成された人造湖は東大雪湖と名付けられました。

発2 ▶ 十勝発電所 (北海道電力株式会社)

運転開始：昭和60年
 形式：ダム式 **出力：40,000kW**
 使用水量：94.00^m/s 有効落差：49.50m
 北海道開発局によるダムの建設に合わせて造られました。



ダ3 ▶ 岩松ダム (北海道電力株式会社)

型式：重力式コンクリートダム
 堤高：37.2m 堤頂長：190.5m
総貯水量：902万^m



発電専用のダムです。ダムによって形成された人造湖は岩松湖と名付けられました。

発3 ▶ 新岩松発電所 (北海道電力株式会社)

運転開始：平成28年
 形式：ダム水路式 **出力：16,000kW**
 使用水量：45.00^m/s 有効落差：40.30m
 昭和17年に運転開始した岩松発電所の老朽化に伴い平成28年に新設され、出力は3,400kW増加されました。



堤高：基礎地盤から堤体(ダム本体)の一番上までの高さ。見た目の高さとは異なります。
 使用水量：発電に使用する(水車を通過する)水の量です。単位は1秒間に使用する量です。
 有効落差：導水管などの摩擦による損失を差し引いた、実際に水車を動かすために使える落差です。